

2025年12月期 第2四半期（中間期）

決算補足説明資料

株式会社 ミズホメディー(証券コード4595)

2025年8月8日

I 会社概要

II 事業概要

III 2025年12月期

- ・第2四半期（中間期）決算実績
- ・通期業績予想（6月23日公表）

IV 今後の成長戦略

会社概要



- 商 号 株式会社 ミズホメディー（証券コード4595）
- 設 立 1977年11月2日
- 本社所在地 佐賀県鳥栖市藤木町 5 番地の 4
- 代 表 者 代表取締役会長兼社長 唐川文成
- 従業員数 195名（2025年 6 月30日現在）
- 事業内容
 - ・病院・開業医向け体外診断用医薬品の開発・製造・販売
 - ・OTC（薬局・薬店）向け検査薬の開発・製造・販売
- 主要取引先 株式会社メディセオ、東邦薬品株式会社
株式会社スズケン、アルフレッサ株式会社
株式会社アステム、富士フイルム株式会社 他
- 営業拠点
 - ・本社 ・東京営業所 ・大阪営業所
 - ・名古屋営業所 ・その他各地駐在
- 工場・開発拠点
 - ・本社・工場（佐賀県鳥栖市）
 - ・久留米工場・遺伝子研究所（福岡県久留米市）



本社・工場（佐賀県鳥栖市）



久留米工場・遺伝子研究所（福岡県久留米市）

もっと人のために。

わたしたちは、臨床検査薬を通じ、
確かな技術力で社会へ貢献してまいります。

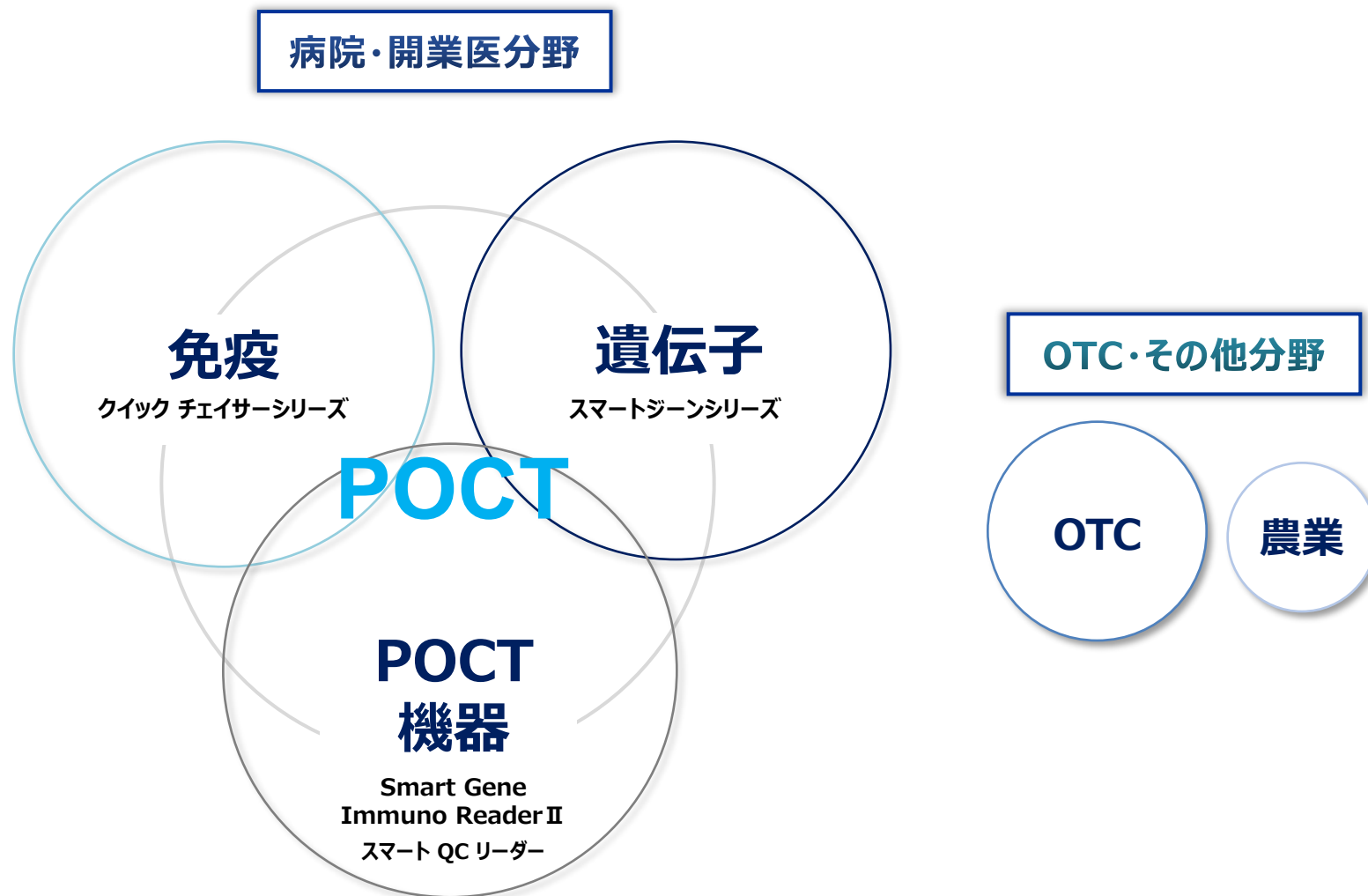
I 会社概要

II 事業概要

III 2025年12月期

- ・第2四半期（中間期）決算実績
- ・通期業績予想（6月23日公表）

IV 今後の成長戦略



※POCT (Point of Care Testing) : 診察室、病棟及び外来患者向け診療所など、患者に近い医療現場での検査

(1) POCT迅速診断キット(機器判定・目視判定)



▶ スマート QC リーダー(クイック チェイサーシリーズキット測定用医療機器)

デンシトメトリー分析装置

スマート QC リーダー®



- ◎ クイック チェイサーシリーズ (リーダー対応) の読取装置
- ◎ 機器による客観的な判定 (発色濃度を画像解析) が得られ、目視判定時の迷いを解消
- ◎ 2024年4月 スマート QC リーダー対応
SARSコロナウイルス抗原キット・RSウイルスキット
「クイック チェイサー SARS-CoV-2/RSV」を発売開始

2024
4月発売



SARS-CoV-2/RSV



SARS-CoV-2



SARS-CoV-2/Flu



Flu A/B



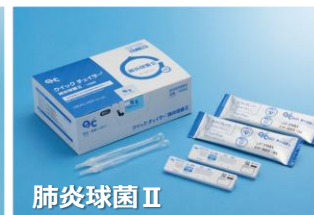
Strep A



Adeno



RSV/hMPV



肺炎球菌 II



肺炎球菌/レジオネラ

【製品の特長】

- ◆ 選べるモード設定
 - ①ヨミトリ (反応時間経過後に機器が判定)
 - ②ジドウソクテイ (試料滴下後に自動測定)
- ◆ 検査結果は自動でプリントアウト
- ◆ 軽量 (0.7kg)、コンパクトで持ち運び可能
103×220×125mm (幅×奥行×高さ)
- ◆ 時間管理が不要 (※モードによる)

(1) POCT迅速診断キット(目視判定)



クイック チェイサー シリーズ (業界トップクラスのラインナップ)

大病院からクリニックまで、どのような医療現場でも使うことができる、POCT製品(迅速診断キット)シリーズ

呼吸器感染症検査薬



SARSCoウイルス/
インフルエンザウイルス



hMPV



RSウイルス



マイコプラズマ

消化器感染症検査薬



ノロウイルス



ロタウイルス/
アデノウイルス

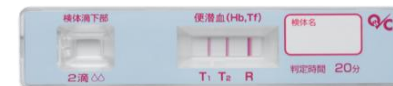


クロストリジウムディフィシル



H. ピロリ

尿糞便検査薬



便潜血

(2) POCT機器試薬システム（機器判定）



➤ 高感度感染症迅速診断システム

デンストメトリー分析装置

クイック チェイサー Immuno Reader II



【製品の特長】

- ◆ 早期診断が可能（発症初期の診断精度向上）
- ◆ コンパクト化（省スペース）
- ◆ タッチパネルの採用（操作性・視認性向上）
- ◆ バーコードリーダー搭載（検体ID情報等読取可）
- ◆ 装置による結果判定（判定結果はモニター表示とプリントアウト）

Immuno Readerシリーズ 累計販売台数：約5,400台

◎ 当社のメンブレン技術と富士フイルム株式会社の写真現像技術
を融合した銀増幅反応により高感度化を実現

◎ 2025年2月
SARSコロナウイルス抗原キット・インフルエンザウイルス抗原キット
「クイック チェイサー Auto SARS-CoV-2/Flu A,B」
を発売開始

2025
2月発売

【AUTOシリーズ専用試薬】



(3) 遺伝子POCT機器試薬システム ①



➤ 全自動遺伝子解析システム（PCR・Qプローブ法）

全自動遺伝子解析装置 Smart Gene



【製品の特長】

- ◆ 迅速判定が可能
- ◆ 1ステップ自動判定。試薬ロスができません
- ◆ 核酸分子の配列情報を解析できます
- ◆ コンパクト設計の卓上タイプ
- ◆ タッチパネルでスムーズな操作

Smart Gene 累計販売台数：約5,700台

- ◎ 遺伝子の抽出・PCR増幅・検出を1つのカートリッジ内で行いコンタミなどのリスクを抑制する簡易迅速な測定操作試薬
- ◎ 2021年4月 SARSコロナウイルス核酸キット「スマートジーン SARS-CoV-2」を発売開始
- ◎ 2022年12月 ヘリコバクターピロリ核酸キット「スマートジーン H.pylori G」を発売開始

【Smart Gene専用試薬】



(3) 遺伝子POCT機器試薬システム ②



➤ 全自動遺伝子解析システム（PCR・Qプローブ法）

微生物/遺伝子検査が身近に

～ SARSコロナウイルス感染症(COVID-19)の検査体制の拡充に貢献 ～



体外診断用医薬品

SARSコロナウイルス核酸キット

スマートジーン® SARS-CoV-2

【試薬の特長】

- ◆ 煩雑な前処理不要（RNA抽出作業が不要）
- ◆ 新型コロナウイルスの検出が試料滴下からわずか約60分の迅速判定
- ◆ 開業医・診療所などで、院内検査が可能

(3) 遺伝子POCT機器試薬システム ③



➤ 全自動遺伝子解析システム（PCR・Qプローブ法）

微生物/遺伝子検査が身近に

～ 日本で初めての胃内視鏡廃液を利用した高感度遺伝子測定 ～

2022年11月 保険収載



体外診断用医薬品

ヘリコバクターピロリ核酸キット

スマートジーン® H.pylori G

【試薬の特長】

- ◆ 感染診断とクラリスロマイシン感受性の判定が可能
- ◆ 煩雑な前処理不要（RNA抽出作業が不要）
- ◆ 内視鏡検査当日に適切な除菌薬が選定できる
- ◆ 開業医・診療所などで、院内検査が可能

➤ 妊娠検査薬・排卵日検査薬

◎ 自社ブランド「P-チェック」での販売や大手チェーン店とのPB提携も実施

【妊娠検査薬】



【排卵日検査薬】



◎ アリナミン製薬株式会社 販売の「ハイトスターシリーズ」

【妊娠検査薬】



【排卵日検査薬】



I 会社概要

II 事業概要

III 2025年12月期

- ・第2四半期（中間期）決算実績
- ・通期業績予想（6月23日公表）

IV 今後の成長戦略

2025年第2四半期（中間期）決算実績 第2四半期 決算ハイライト



➤ 業績ハイライト 第2四半期（中間期）

✓売上高	3,976百万円（前年同期比 14.8%減, 予想比 0.4%増）
✓営業利益	1,476百万円（前年同期比 19.9%減, 予想比 8.0%増）
✓経常利益	1,397百万円（前年同期比 32.9%減, 予想比 13.1%増）
✓中間純利益	1,020百万円（前年同期比 31.5%減, 予想比 10.8%増）

※予想は、2025年6月23日公表

➤ ポイント

✓前年同期比：

新型コロナウイルス感染症の5類移行の影響により、新型コロナの遺伝子検査キットは減少も、抗原キットは増加。インフルエンザやその他の感染症項目は減少、売上高減少により経常利益及び中間純利益も減少

✓予想比：

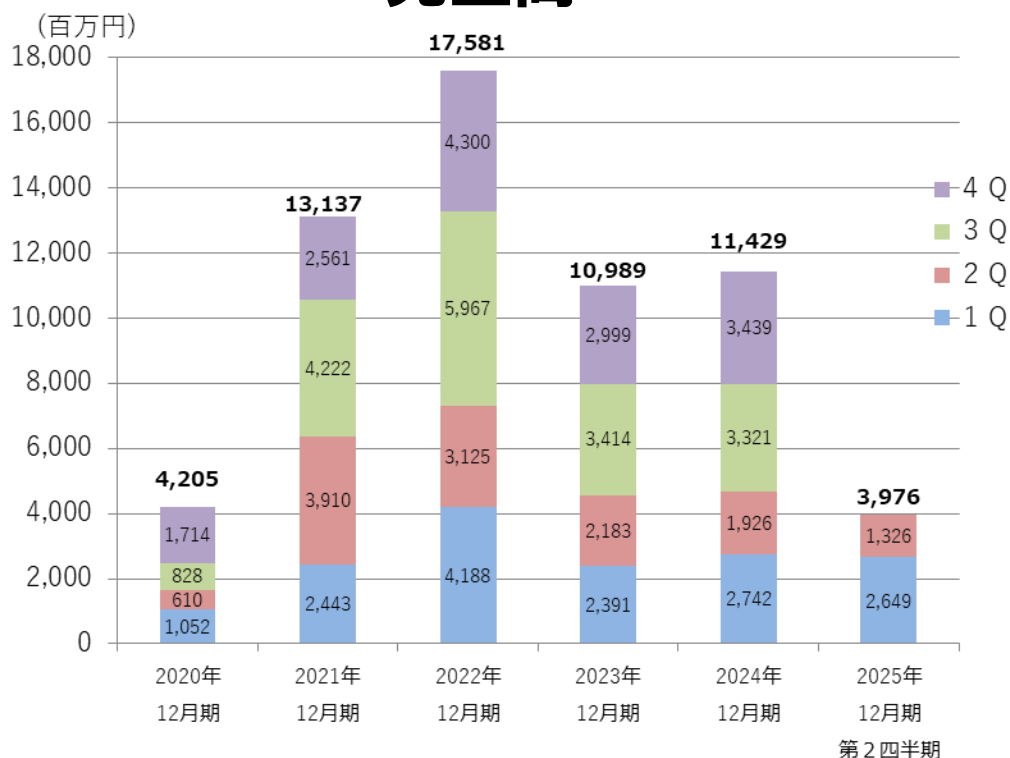
売上高は計画をわずかに上回る、主に販管費の抑制等により、経常利益及び中間純利益は計画を上回る

2025年第2四半期（中間期）決算実績 業績の推移（売上高、経常利益）

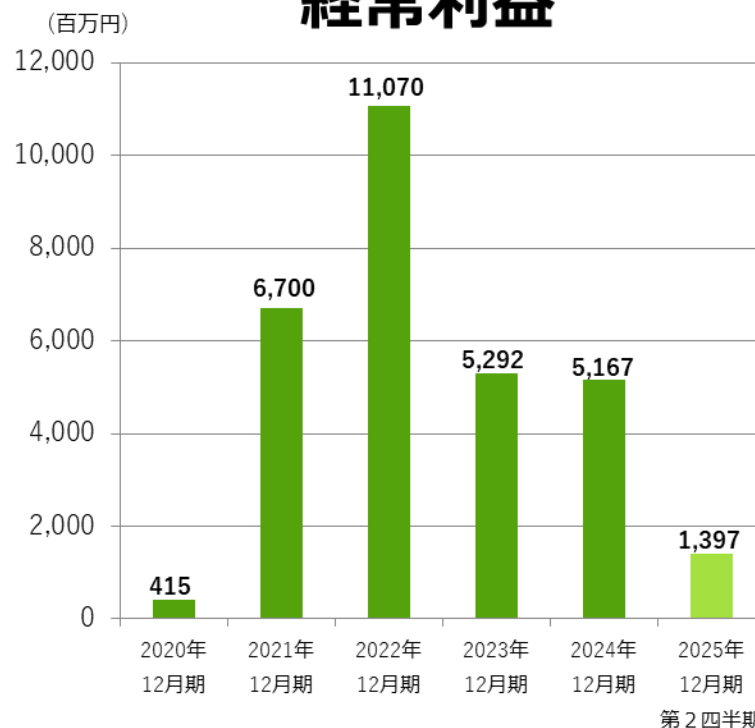


- 2025年(中間) : 新型コロナの遺伝子検査キット、インフルエンザやその他感染症全般が減少
- 2021-24年 : 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を背景に、全自動遺伝子解析装置 Smart Gene、遺伝子検査キット及び各抗原キットの需要が拡大し、大幅な増収増益
- 2020年 : 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一時的に全体の売上高・利益が縮小
- 2019年まで : 売上高の約50%はインフルエンザ検査薬（流行期の1Qと4Qに集中）

売上高



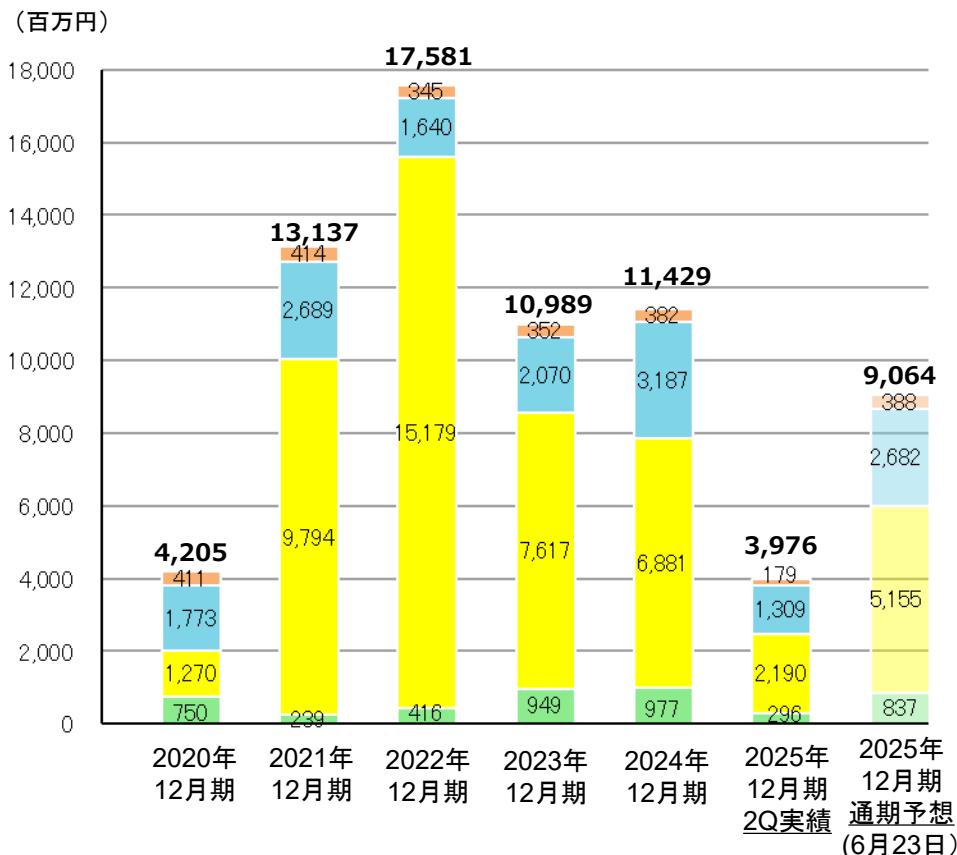
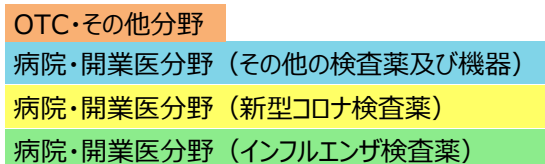
経常利益



2025年第2四半期（中間期）決算実績 市場分野別の売上高推移



市場分野別の売上高



2025年第2四半期実績（3,976百万円 前年同期比 14.8%減）

- 新型コロナウイルス感染症の5類移行の影響により、遺伝子検査キットは減少も、抗原キット(COV/FLU同時検出含む)は増加
- インフルエンザやその他の感染症は、流行の規模や期間縮小に伴い、一部を除き全体的に需要減少

■ 病院・開業医分野（3,796百万円 同15.5%減）

◇ 新型コロナ検査薬（2,190百万円 同17.6%減）

- ・遺伝子検査キット(スマートジーン SARS-CoV-2) 8万テスト(前年同期は17万テスト)と減少も、陰性確認のための高精度な検査として一定の需要が継続
- ・抗原キット (CoV/Flu同時検査、CoV単独、銀増幅法含む) 計242万テスト(前年同期は220万テスト)と増加

◇ インフルエンザ単独検査薬（296百万円 同35.2%減）

- ・2024年12月に警報レベルを超える異例の速さで感染が急拡大したものの、2025年2月中旬以降急速に感染収束のため、大幅減少

◇ その他の検査薬及び機器（1,309百万円 同4.8%減）

- ・全自動遺伝子解析装置Smart Geneの累計販売台数は約5,700台
- ・その他の感染症項目の検査薬は、コロナ禍の反動として、一部急拡大する感染症もあるが、全体的には需要が減少

■ OTC・その他分野（179百万円 同0.8%増）

◇ 妊娠検査薬及び排卵日検査薬

- ・一定の安定的な需要が継続し、前期の水準を維持

2025年第2四半期（中間期）決算実績 損益計算書 P/L（前年同期比、予想比）



➤ 売上高	3,976百万円	（前年同期比 14.8%減、	予想比 0.4%増）
➤ 経常利益	1,397百万円	（前年同期比 32.9%減、	予想比 13.1%増）

- ✓ 前年同期比：新型コロナウイルス感染症の5類移行の影響により、抗原キットは増収となるも遺伝子検査キットやインフルエンザ及びその他感染症項目は減収
- ✓ 予 想 比：売上高は計画をわずかに上回る、主に販管費の抑制等により、経常利益及び中間純利益は計画を上回る

（百万円）

	2024年12月期		2025年12月期							
	中間期実績		中間期予想 (6月23日公表)		中間期実績		前年同期比		予想比 (6月23日公表)	
	金額	構成比 %	金額	構成比 %	金額	構成比 %	増減額	増減率 %	増減額	増減率 %
売上高	4,668	100.0	3,959	100.0	3,976	100.0	△692	△14.8	16	0.4
売上総利益	3,277	70.2	2,802	70.8	2,823	71.0	△453	△13.8	21	0.8
販売費及び 一般管理費	1,434	30.7	1,435	36.2	1,347	33.9	△87	△6.1	△87	△6.1
営業利益	1,843	39.5	1,367	34.5	1,476	37.1	△366	△19.9	109	8.0
経常利益	2,081	44.6	1,235	31.2	1,397	35.1	△683	△32.9	162	13.1
中間純利益	1,489	31.9	921	23.3	1,020	25.7	△469	△31.5	99	10.8

2025年第2四半期（中間期）決算実績 貸借対照表 B/S（資産）



- 主に新型コロナウイルス検査薬に係る売上債権の回収に伴い、売上債権が減少し、現金及び預金が増加

（百万円）

	2024年 12月末	2025年 2Q末	増減額	主な増減内容
流動資産	17,998	17,039	△959	
現金及び預金	11,246	12,365	1,118	・売上債権回収に伴う増加
売上債権	4,545	1,662	△2,883	・主に新型コロナウイルス検査薬に係る売上債権回収による減少
棚卸資産	2,048	2,904	856	・主に抗原キット関連の増加
その他流動資産	158	107	△50	
固定資産	2,730	2,691	△39	
有形固定資産	2,271	2,294	22	
無形固定資産	10	8	△1	
投資その他の資産	448	388	△60	
資産合計	20,729	19,730	△998	

2025年第2四半期（中間期）決算実績 貸借対照表 B/S（負債・純資産）



（百万円）

	2024年 12月末	2025年 2Q末	増減額	主な増減内容
流動負債	2,287	1,489	△797	
仕入債務	518	620	101	
短期借入金	—	—	—	
その他流動負債	1,768	869	△899	・未払法人税等の減少△535
固定負債	1,087	1,008	△78	
長期借入金	—	—	—	
その他固定負債	1,087	1,008	△78	
負債合計	3,375	2,498	△876	
株主資本	17,353	17,231	△121	
資本金	464	464	—	
資本剰余金	274	274	—	
利益剰余金	16,616	16,494	△121	・24年12月期配当金△1,141 ・中間純利益1,020
純資産合計	17,354	17,232	△122	
負債純資産合計	20,729	19,730	△998	

2025年第2四半期（中間期）決算実績 キャッシュ・フロー計算書 C/F



- 営業活動によるキャッシュ・フローは、主に新型コロナウイルス検査薬に係る売上債権の回収及び税引前中間純利益により増加

（百万円）

	2024年2Q (1月～6月)	2025年2Q (1月～6月)	主な増減内容
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,339	2,528	・税引前中間純利益（+1,397） ・売上債権の減少（+2,883） ・法人税等の支払（△835） ・棚卸資産の増加（△856） ・為替差損益（+133）
投資活動によるキャッシュ・フロー	△187	△7,134	・有形固定資産の取得（△133） ・定期預金の預入（△7,000）
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,333	△1,141	・配当金の支払（△1,141）
現金及び現金同等物の増減額	823	△5,747	
現金及び現金同等物の期首残高	8,716	9,664	
現金及び現金同等物の中間期末残高	9,540	3,916	



➤ 2025年下半期の見通し

■ 下半期見通し：5類移行後、新型コロナウイルス感染症やその他の感染症の流行を予測することはより困難になったが、現在の流行状況により通期業績予想は達成可能と見込む

- ✓ 新型コロナ検査薬 ⇒ ・足元では夏場の感染状況はゆるやかに拡大しているが、一旦収束したのち、冬場に再拡大を予想
・抗原キット(CoV/Flu同時検査含む)は、下半期も高い需要が継続すると予想
- ✓ インフルエンザ検査薬 ⇒ 次シーズン(2025/2026)の流行は、コロナ禍前の傾向に近づくと予想
- ✓ その他感染症項目 ⇒ 一部の感染症項目は、反動的な急拡大を伴いながら、全体的にはコロナ禍前のレベルに戻ると予想

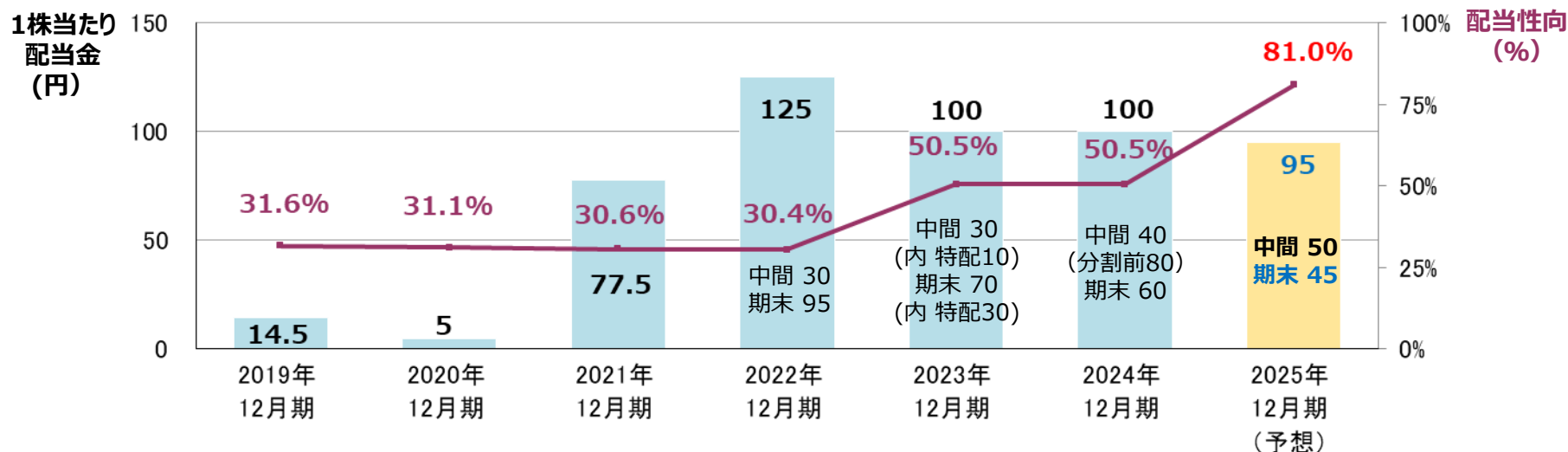
(百万円)

	2025年12月期				
	中間期実績		通期予想(6月23日公表)		中間期 進捗率 (%)
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	
売上高	3,976	100.0	9,064	100.0	43.9
売上総利益	2,823	71.0	6,210	68.5	45.5
販売費及び一般管理費	1,347	33.9	3,046	33.6	44.2
営業利益	1,476	37.1	3,164	34.9	46.7
経常利益	1,397	35.1	3,038	33.5	46.0
当期（中間）純利益	1,020	25.7	2,235	24.7	45.7

配当方針

『業績に対応した配当を行うことを基本としつつ、配当性向、企業体質の一層の強化及び今後の事業展開に備えるための内部留保の充実などを総合的に勘案して決定』

- 2022年12月期まで ⇒ 配当性向30%
- 2023年12月期 ⇒ 配当性向30% + 特別配当 = 配当性向50%
※株主の皆様の日頃のご支援にお応えするため、特別配当を実施
- **2024年12月期より ⇒ 配当方針の変更「配当性向50%目標、中間配当と期末配当の年2回」**
※株主の皆様への利益還元の姿勢をより明確にし、かつ充実させるため配当方針を変更



※上記の1株当たりの配当金は、2024年7月の株式2分割に伴う影響を加味しております。

I 会社概要

II 事業概要

III 2025年12月期

- ・第2四半期（中間期）決算実績
- ・通期業績予想（6月23日公表）

IV 今後の成長戦略

遺伝子POCTシステム Smart Geneシリーズの特徴を活かした製品群

呼吸器感染症分野

SARS-CoV-2 RNAの検出

スマートジーン® SARS-CoV-2



インフルエンザウイルスRNAの検出

スマートジーン® Flu A,B



全自動遺伝子解析装置

Smart Gene®

早期確定診断 ⇒ 早期治療, 感染防御

- ・コンパクトで低コストの装置
- ・前処理不要 1ステップ
- ・検体滴下から40~50分で検査出力
- ・結果プリントアウト (ネットワーク対応)

消化器感染症分野

クロストディオデス・デフィシルトキシンB DNAの検出

スマートジーン® CD トキシンB



ヘリコバクター・ピロリ DNAの検出 及び耐性変異の検出

スマートジーン® H.pylori G



薬剤耐性の同時鑑別 ⇒ 抗菌薬適正使用

- ・Qプローブ法により
薬剤耐性変異の同時検出

マイコプラズマ・ニューモニ DNAの検出 及び耐性変異の検出

スマートジーン® Myco



感染初期の遺伝子検査需要を拡大（スクリーニング&確定）

確定診断を迅速に治療・投薬へつなげる

基幹病院

呼吸器重症感染症

消化器感染症

泌尿器・婦人科感染症

院内感染症予防

遺伝子POCT

機器・試薬システム

- ・コンパクトで低コストの装置
- ・簡易迅速な操作法
- ・Qプローブ法により同時変異検出

グレードアップ

- ・多項目選定・同時検出
- ・超高速サーマルサイクルPCR
- ＜更なるイノベーションの発掘＞
- DX（ネットワーク、クラウド）

クリニック・市中病院

小児科内科呼吸器感染症

消化器感染症

泌尿器・婦人科感染症

人間ドック（検診）

新たな遺伝子診断市場への展開

新たな遺伝子診断市場への展開

迅速マルチ遺伝子POCT検査システム

より速く、手軽で簡便に(15分以内)

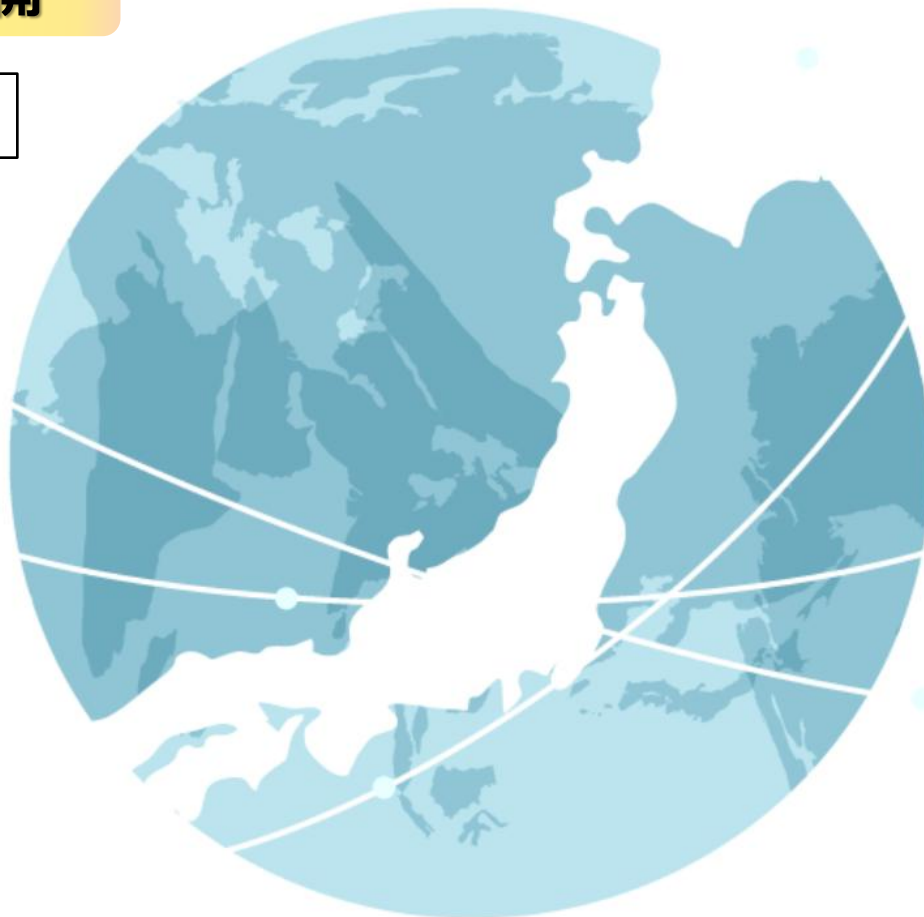
複数テストを同時測定

臨床データをオンラインで収集・分析

流行や変異などの疫学情報を共有・提供



製品イメージ



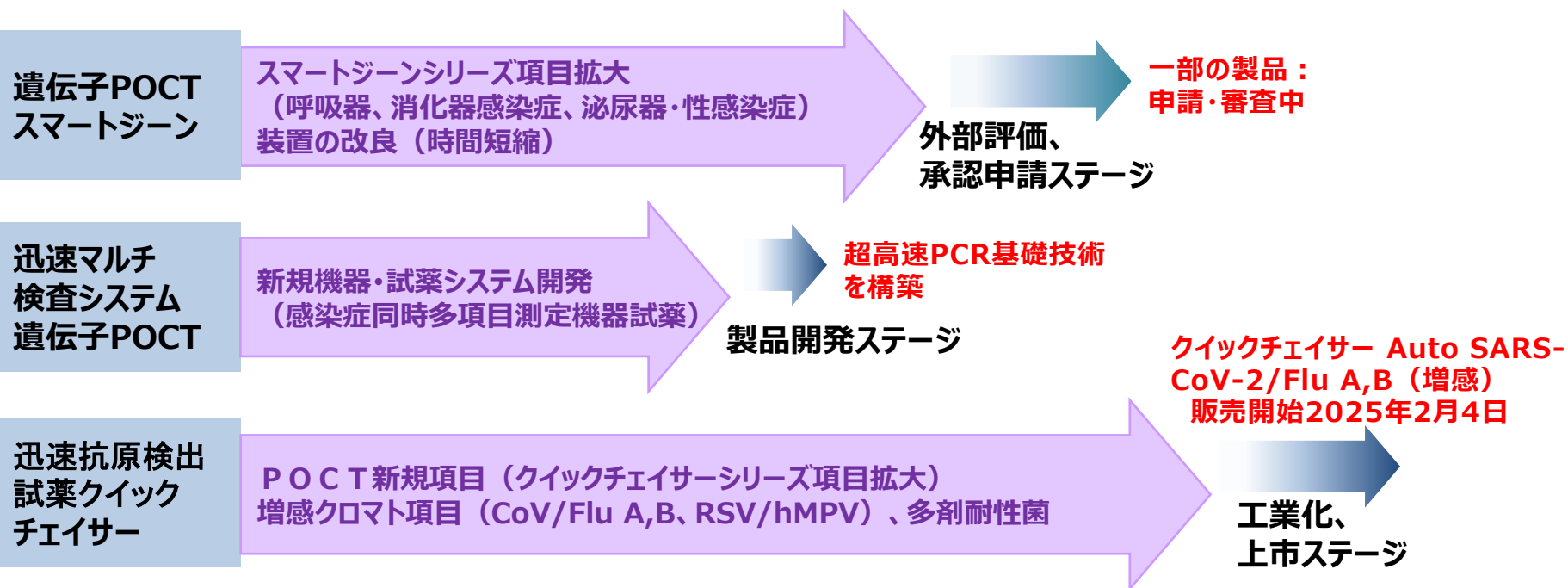
技術開発を基盤とした当社成長戦略



➤ R&Dステージ



各開発品の現在のステータス



IRに関するお問い合わせ先

株式会社ミズホメディー 総務部

電話：0942-85-0303

お問い合わせフォーム：https://www.mizuho-m.co.jp/ir/ir_contact

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。